様式1

令和５年度　学校評価表

学校教育目標	感性豊かに　しなやかに　たくましく生き抜く人間の育成　～未来を拓く基盤をつくる～

a　ミッション	「オール浦崎」で取り組む　キャリア教育の充実による　主体的な学びの実現	a　ビジョン	生徒が自信と誇りを持って活動し、地域や保護者から信頼される学校をつくる

尾道市立浦崎中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
夢と志を抱き　グローバル社会を生き抜く児童・生徒の育成	主体性を持ち、知・徳・体の調和とれた児童・生徒を育成する	主体的に学ぶ力の育成	基礎的・基本的学力の定着を図り、児童・生徒が自ら課題解決する力を育成する【主体的に学ぶ力】 ・学習ドリルの積み上げ ・探究的な学習の創造	・自ら学習に取り組んでいるという生徒の割合（昨年度：70%） ・総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、活動に取り組んでいるという生徒の割合（昨年度：76%） ・教職員が教科と総合的な学習の時間の横断的な学びで、基礎学力の定着と向上を図っている割合 ・3年生定期試験の５教科の合計点150点以下の割合 ・１、２年生標準学力調査の割合	75% 80% 75% 3割以下 全国比＋2P	75% 86.4% 55.5% 6.7% -6.6P	68.9% 86.7% 33.3% 13.3%	92% 108% 44% (100%)	B A C (100%)	定期試験の学習計画表を工夫して、家庭学習の進め方を再度指導したが、自ら進んで勉強している生徒は6.1ポイント減少した。 総合的な学習の時間では、各学年や全体総合のグループごとでG.T.を招聘するなどして課題解決学習に取り組ませた。教科との学びが相互に活用できるよう横断的な学びを取り入れた授業改善があまり進まなかったが、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことなどを発表する学習活動に取り組んでいる生徒は横ばいだった。 主体的な家庭学習に結びつけさせるため、SHR時に学習活動に取り組ませたが、3年生定期試験の５教科の合計点150点以下の生徒は6.7%%ポイントと微増した。	○			・基礎学力をつけるには，生徒が分かるところから教え直してあげないといけない。生徒が自主的に学習できるレベルに引き上げて欲しいと思う。 ・つまずいている生徒に再チャレンジできるように、基礎学力の定着を図ってほしい。 ・自主学習が上手くできると学力向上につながっていくと思うが、どう取りかかっていいか分からない生徒も多いようなので、丁寧な指導が必要なんだと思う。 ・集中して学習できる学級経営をお願いします。 ・先生と教員のやる気が一番だと思う。	○来年度に向けてカリキュラムマップの改善を図り、各教職員が他教科や総合的な学習の時間との横断的な学びを意識した授業改善に取り組む。具体的には、学習指導案に、他教科や総合的な学習の時間を中心とした各領域の学習内容との連関性を明記する。（学習内容の系統性についても、これまで通り継続する。） ○週１回のチャレンジタイムを継続し、基礎学力の定着が不十分な生徒を中心に学び直しの充実を図ることを通して、基礎的・基本的学力の定着と向上を図る。
			授業改善を通して思考力・表現力の育成を図る【思考力・表現力】 ・対話的な学び ・表現活動の充実 ・振り返りの活用	・授業では、情報を比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見つけたり（関係づけ）して、課題に取り組めているという生徒の割合（昨年度：68%） ・授業で、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しているという生徒の割合（昨年度：70%） ・生徒の振り返りを基に生徒の主体的な学びの実現を図る教職員の割合	75% 80% 75%	84.1% 84.1% 55.5%	80% 73.3% 55.5%	107% 92% 74%	A B C	朝のＳＨＲで、教師が選んだ新聞記事について自分の意見を書かせる「文聞タイム」を週１度設定し、読解力や思考力の向上に取り組んだ。また、「振り返り」の状況を教職員で交流してその充実を図ったが、主体的な学びが実現するような工夫・改善があまり進まず、授業で比較・分類・関係づけをしたりして、何が分かるのか考えている生徒は4.1ポイント、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝わるように発表を工夫してる生徒は10.8ポイント減少した。	○			・先生方の質の向上がないと、生徒を指導仕切れないので、先生方の指導力を上げていくことが肝心である。そうすれば、自ずと成績も良くなっていくと思う。 ・教員の評価指標を入れた点が評価できる。管理職の指導力に期待している。 ・新聞を取らない家庭が増えており、多くは携帯端末等で情報を得ている。家庭の考え方が大事。 ・自分の考えを人に伝えることはなかなか難しいと思うが、繰り返しだと思うので、引き続き取り組んでいってほしいと思う。	○朝のSHRで行っている「文聞タイム」を聞記事を読ませて感想を書かせるだけでなく、記事を要約させるなどの改善を図ることを通して、書く力の向上を図る。 ○全体総合での探究学習を継続して、CSと協働し、社会に開かれた教育課程を実現する。主体的・対話的な学びを充実させるとともに、その成果を発表する機会を増やすことを通して、表現力の育成を図る。 ○生徒の振り返りが向上し、主体的で深い学びが進み、その実践を校内で交流することを通して、さらなる授業改善に取り組む。 ○教職員集団としての資質向上をめざし、適切な研修受講と還流を行う。
		自己肯定感の向上	前向きに取り組むことができる自己コントロール力をつける【かかわる力】 ・自治活動	・自己肯定感に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合（昨年度：78%） ・集団の中で安心して生活できるという生徒の割合（昨年度：94%） ・仲間と共に自治活動をやりきることができたと肯定的に答えている生徒の割合 ・生徒の協働した自治活動を支援し、達成感をもった教職員の割合	80% 100% 80% 100%	85.6% 77.3% 93.2% 88.9%	77% 77.8% 86.7% 66.6%	96.2% 77.8% 108.3% 77.8%	B C A C	「自己肯定感に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合」は、「77%」で目標達成することができなかった。7月より7.4ポイント減少した。「集団の中で安心して生活できるという生徒の割合」は、目標達できなかったが、7月より、0.5ポイント増加した。引き続き、学級や学校全体で生徒をしっかりと見ていき安心安全な学校の実現を図っていきたい。「仲間と共に自治活動をやりきることができたと肯定的に答えている生徒の割合」は、目標を達成することができた。「生徒の協働した自治活動を支援し、達成感をもった教職員の割合」は、目標達成できなかった。	○			・中学生として自立するプレッシャーからか，おとなしくなっている生徒もいる。しかし男女の仲はよく、一緒に帰っている姿をよく見かける。文化祭、職場体験の発表、立志式、入試など先生方には頑張ってもらっている。結果と課題については、改善案に示されている方向で指導をお願いしたい。学校評価としては問題ない。 ・学校は生徒・先生・事務職・用務員等で構成されている。相互理解を前提に全てのことに取り組んではどうか。 ・生徒の良い面を引き出し、自信を付けさせてほしい。	○「自己肯定感に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合」が大きく低下した。行事などで主体的に取り組みをさせて達成感をえられる工夫が必要だと感じる。 ○「生徒の協働した自治活動を支援し、達成感をもった教職員の割合」については、目標未達成のため、生徒だけではなく教職員の意識改革が必要である。 ○生徒のリーダーシップを育むため、生徒会活動を中心に生徒の自己決定を促し、自分事として参画させる。
			特別活動や行事、園小中連携、地域の人との関わりを通して、互いに関わり合う集団・個人を育てる【かかわる力】 ・地域の力と協働した授業	・地域貢献に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合（昨年度：71%） ・こども園や小学校の児童と関わることで新たな学びに気付きがあった生徒の割合 ・ゲストティーチャーを招き、地域と関わり合いながら授業を行った回数	80% 80% 年間10回	81.1% 65.9% 学期5回	81.5% 66.7% 学期6回	101.8% 83.3% 110%	A B A	「地域貢献に関する問いに肯定的に答えている生徒の割合」は、目標達成し、7月より、0.4ポイント上昇した。「こども園や小学校の児童と関わることで新たな学びに気付きがあった生徒の割合」は目標達成できなかった。関わりのある行事の中で、振り返りを丁寧にするなど学びにつながる工夫が必要である。「ゲストティーチャーを招き、地域と関わり合いながら授業を行った回数」は、2学期間に6回呼ぶことができた。そのため、年間１０回は達成できた。	○			・浦崎の生徒はコミュニケーションが課題で、他の地域との交流がほとんどない。他校との意図的な交流も必要である。高校入試では面接（表現）もある。地域の人が面接をするなど、生徒たちにも刺激を与えて欲しい。中学校でアンケートを取っているが、しっかりと中身を分析して，結果を元に・更なる指導にあたって欲しい。 ・クラブ活動で市内大会に行ったときに、他校と交流して友達と作る（これは先生が意識付けをしないといけない）グループに入れない、コミュニティーに入れないなど、そういったことがあるので、何か他校との交流をしていく仕掛けをしていくことが必要である。 ・子供は自然とコミュニケーションをとれるようになっていくと思うが，人によってできる子とできない子はいるので、そこをサポートしていって欲しい。 ・地域貢献が独り善がりにならないよう、計画段階でもっと協議する時間をつくってほしい。	○こども園や小学校の児童と関わることで新たな学びに気付きがあった生徒の割合については、目標達成できなかった。事前にどのように関わるか、何を目標にするのか考えさせて、行事に参加させていきたい。また、振り返りシートを工夫して生徒自身に自分の学びを振り返ることを継続して取り組んでいきたい。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。